

## 海域の概要

本湾は、南部を中国地方、北部を青海島に挟まれた内海で、東部が日本海に向かって開けています。西部は深川湾と隣接しています。湾内ではクルマエビやヒラメなどの栽培漁業が推進されています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：2 9 9 k m

面積：2 7.2 2 k m<sup>2</sup>

湾内最大水深：3 7 m

湾口最大水深：3 7 m

閉鎖度指標：1 7 4

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

山口県大津郡三隅町一宗の鼻と長門市笹島南端を結ぶ線、同島北端と長門市大島東端を結ぶ線、同島北端と長門市通字大山六番一東端を結ぶ線、同市青海大橋及び陸岸により囲まれた海域。

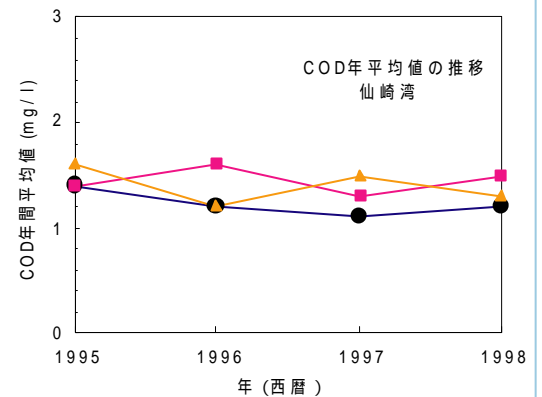


## 環境

仙崎湾では、冬季に北西の季節風を受けますが、降雪は少なく、気温も対馬暖流の影響を受けて内陸に比べて高いです。

水質は全般に良好ですが、三隅川が流入していることもあり、湾奥部や漁港付近では水質悪化の傾向が見られます。

COD年平均値は、1～2mg/lの範囲でほぼ横這いに推移しています。



## 自然

仙崎湾は、外海と青海島により隔てられた波静かな湾ですが、青海島の外海側は断層、洞穴、石柱などの海食による変化に富む岩肌が見られ、北長門国定公園に指定されています。

湾内の岩礁部には、ガラモ場が広がり、弁天島付近にはアマモ場が点在しています。



青海島

## 文化歴史

藩政時代、仙崎湾にはよく鯨が入ってきたので、青海島の通浦、その対岸の瀬戸崎浦には「鯨組」と呼ばれる大規模な捕鯨組織が誕生し、「鯨の一頭獲れば七浦が賑わう」といわれ、北浦の漁場は隆盛をきわめました。その後、明治に入りノルウェー式捕鯨法が採用され、近海捕鯨は活況を帯びました。青海島にはくじら資料館があり、古代捕鯨と漁民達の歴史を伝える様々な展示物や鯨墓があります。これは全国でも珍しい、鯨を吊った墓で、200年以上に渡って明治時代までに埋葬された鯨の胎児70数体があり、国の史跡指定を受けています。捕鯨が廃絶した今でも、毎年鯨の法要が行なわれています。



くじら資料館

## 産業

漁業が中心で、特にカキ、ワカメ、アオノリなどの品質が良いことで有名です。仙崎漁港では、1万トンの水揚げがあり、漁獲物にはかまぼこの原料として適したものが多く、山口県の有数のかまぼこ産地となっています。

農業では、米、麦、野菜の他、夏みかん、梅、柿などの果実、葉たばこの栽培が行われています。また、青海島の景観資源を核とする観光地ともなっています。